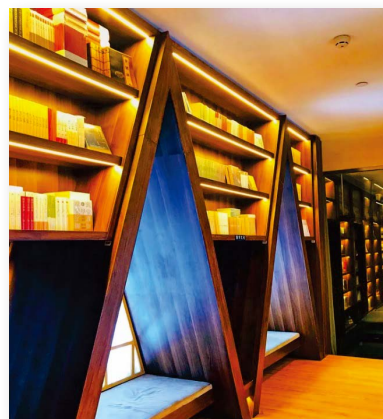




スタイリッシュな空間

「上海で最も美しい書店」“鐘書閣・上海徐匯店”

2013年にオープンした『鐘書閣』は、上海の徐匯緑地續紛城に位置する『鐘書閣』徐匯店の面積は1750㎡、文学や社会科学系の書籍を中心に350万冊以上の書籍量を誇り、図書文化のランドマークになっています。また、フォトジェニック(撮影映える)ポイントとして知られ、「最も美しい書店」と呼ばれています。店内は独特なデザインによって、魔法の世界のような雰囲気醸し出し、中国の実店舗書店のモデルチェンジの見本とされています。



特集

静岡県経済交流代表団、浙江省訪問

錦秋の杭州で多層多彩な対話と交流を行う

- ◎ ウォッチング 中国の今・・・「人口減少、少子高齢化」は共通の課題
- ◎ 駐在生活からみえる「今日のランチ」 静岡県上海事務所 石川祐介所長
- ◎ 中国啤酒物語 -VOL.3-
- ◎ 呉昌碩の世界 詩・書・画・篆刻の巨匠

静岡県経済交流代表団、浙江省訪問 錦秋の杭州で多層多彩な対話と交流を行う

11月6日から11月9日までの日程で静岡県経済交流代表団一行（団長・増井浩二 県副知事 理事長）が浙江省を訪れ、経済など多層多彩な対話と交流を行いました。7日には静岡県・浙江省経済交流促進機構第33回全体会議を開催し、8日には浙江省進出企業交流会、浙江樹人学院創立40周年記念式典などに出席し、両県省の友好関係を促進しました。

静岡県・浙江省経済交流促進機構第33回全体会議を開催



11月7日、静岡県・浙江省経済交流促進機構は、双方委員会代表委員が杭州に一堂に会して第33回全体会議が開催されました。冒頭、静岡県側は増井浩二主席代表、浙江省側は盧山主席代表（浙江省人民政府副省長）がそれぞれ代表挨拶を行い、2024年事業報告と2025年事業計画について報告と確認があり、双方代表委員より提案発言がありました。また、席上、介護分野で交流協定調印式（西山病院グループと物産中大金石グループの高齢者介護に関する友好交流協定、インフィック㈱と正元智慧集団の高齢者支援の産業促進に関する覚書）が行われました。

◎2025年の事業計画 重点分野

1. 交流と協力メカニズムの最適化

- ・静岡県・浙江省経済交流促進機構第34回全体会議を静岡県で開催
- ・青少年スポーツ・文化・芸術交流の実施
- ・杭州-静岡間の直行便の安定運航と新たな直行便の復便

2. 産業サプライチェーンのマッチング協力

- ・新エネルギー車、ハイエンド機器、CO2削減、バイオ医薬、越境EC等での交流促進
- ・製造業のデジタル化、スマート化、グリーン化の支援
- ・交通物流、商業貿易、農業技術における協力

3. 高齢者介護福祉分野の交流

- ・高齢者介護サービスプラットフォームの構築
- ・専門家の相互派遣と研修
- ・健康介護ビジネスと人材育成システムの共同開発
- ・高齢者介護用品の研究開発と販売協力
- ・認知症研究と国際的な教材開発

4. カーボンニュートラルと環境保護

- ・技術とプロジェクトのマッチング交流
- ・企業ニーズの把握と協力プロジェクトの促進

浙江省進出済企業交流会を開催

8 日、代表团及び浙江省に進出している県内企業を含む日系企業や浙江省の政府関係者が参加した「浙江省進出済企業交流会」が開催されました。日本企業の対中投資が落ち込む中であって、こうした機会を通じて、静岡県は浙江省との経済交流を支援しています。現在、多くの県内企業が浙江省に進出し、一方で浙江省から静岡県への進出が模索されています。交流会では、浙江省に進出している日系企業・静岡県関係企業の新たな事業成長に向け、浙江省の関係部門から最新の外資関連政策などを紹介してもらい、多様化する中国ビジネスの事業環境において、産業共創、産業連携、企業間協力などの新規事業、事業再編を検討・模索する機会となりました。



浙江省側から、製造業のデジタル化支援政策、大型研究開発機器のリソース共有政策、外資系企業に対する支援政策、環境アセスメントに関する支援政策についての説明があり、日系企業が浙江省で事業展開するうえで、どのような優遇策やメリットがあるかを紹介されました。また進出企業からの経験談等を紹介していただき、名刺交換会が行われ、浙江省での日系企業活動に対して両県省がサポートする姿勢が示されました。

浙江樹人学院創立40周年記念式典に参加

8 日、1984 年に、中国で最初に設立された私立大学の一つである浙江樹人学院の創立 40 周年記念式典が行われ、代表团一行は記念式典に出席しました。浙江樹人学院は「十年樹木、百年樹人（樹木を育てるには十年、人材を育てるには百年（長い年月）かかる。人材を育成することは容易ではない）」を格言に、人材育成をモットーとして運営されています。現在、杭州と紹興にキャンパスがあり、在学生 17000 人、教職員 1400 人を擁する大学になっています。

静岡県とも強い繋がりがあり、1991 年には、静岡県日中友好協議会よりパソコンを 10 台寄贈したことによ



り「浙静友好電腦室」を設置する等、学術をはじめ幅広い分野で交流を行ってきました。浙江樹人学院から、今後の交流分野として、医療介護での交流を深めたいとの意向が示され、両県省間で交流を促進することを確認しました。

日中青年代表交流

6年ぶりに再会、対面で交流を深める

12月初旬、浙江省の青年代表が来静し、6年ぶりに日中双方の青年の対面交流が実現しました。

静岡県教育委員会と浙江省青年聯合会は、2009年に「青年友好交流に関する協定書」を締結、2011年より青年代表団の相互派遣が開始しました。コロナ禍により、直接交流が中断されていましたが、この度6年ぶりに直接交流が再開しました。12月1日から4日まで、浙江省青年聯合会の包志炎副主席を団長とする浙江青年友好代表団一行6人が来静し、三保の松原や日本平等の景勝地の視察や、静岡デザイン専門学校等の学校訪問、日本の茶道体験や企業訪問等を行いました。また、2日には静岡側の当事業に参加した青年を交えて意見交換会が行われ、双方は直接対面により活発な意見交換を行い、相互理解を深めました。



「世界緑茶コンテスト 2024」

浙江省からの出品茶、初の最高金賞受賞

11月13日、「世界緑茶コンテスト2024」の表彰式が県庁で行われ、世界緑茶協会の鈴木康友会長(静岡県知事)から受賞者に表彰楯が授与されました。

(公財)世界緑茶協会は、お茶の消費拡大を目的に、斬新でお茶の未来を感じさせる商品进行评估する「世界緑茶コンテスト2024」を開催し、日本、中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム、フランスの7ヶ国・地域から出品された合計186点の出品茶の中から、品質、コンセプト、パッケージデザイン、コストパフォーマンスなどが総合的に審査され、最高金賞20点、金賞36点、パッケージ大賞1点が選出されました。

今回、浙江省から出品があった中では、長興大唐貢茶院文化発展有限公司(湖州市)の「紫筍茶」(緑茶)、浙江子久文化有限公司(温州市)の「平陽黄湯」(黄茶)の2点が初めて最高金賞を受賞しました。



ウォッチング 中国の今

「人口減少、少子高齢化」は共通の課題

中国の「人口減少、少子高齢化」は急速に進んでいます。70年代から長期に行われていた『一人っ子政策』は16年に撤廃され、二人目の子どもを持つことが認められるようになっても子供の数が減少する一方で、高齢者(65歳以上が全人口の15%を占める)が急速に増加しています。中国では「親の面倒は子どもが見る」圧力が日本よりも強い傾向にある中、中国もこの重い課題に本腰を入れて取り組んでいます。

退職年齢、段階的引上げに、介護保険導入へ

今年7月に開かれた共産党大会で「改革をさらに全面的に深化させ、中国式の現代化を推進する決定」を採択し、高齢化に対応するための方針も示されました。うち、退職年齢の段階的引上げについては日本でも話題になりました。中国社会科学院の推計によると、全国の都市部労働者の基本年金保険基金は23年から積立金が減少し始め、28年には単年度でマイナスとなり、35年には枯渇するとされています。退職年齢の引上げは高齢者の労働市場への再参入を促進し、経済活動の維持を図るために重要な決定です。



また、この決定には「長期介護保険制度の設立を加速する」があり、この長期介護保険は、年金保険、医療保険、失業保険、労災保険に次ぐ新しい社会保険制度として、06年に初めて導入が提案された保険制度です。その後、医療と介護の統合や高齢者サービスに関する政策が進められ、21年には制度の確立、介護人材の育成、介護用ベッドの供給拡大などが提案、22年10月の共産党大会では、長期介護保険制度の確立が初めて報告書に記載されました。介護保険は、現在試行段階ですが、本格導入に向けて資金確保や都市部と農村部の差異への対応、サービス充実への検討が行われています。

一人っ子政策の終焉で、誰が世話するのか？

中央政府は、若年層が急速に減少していることを憂慮し、21年に法的に『一人っ子政策』を定めた「人口・計画出産法」を改正して、人口抑制政策の見直し、「出産奨励政策」に舵を切りましたが、効果はまだあまり見られない状況にあります。

国家統計局の発表した出生率減少の要因によると、①出産適齢期の女性人口の減少、②結婚や出産年齢などの上昇、③養育や教育費用の高騰による若年層の子育てに対する意欲の低下や考え方の変化、④新型コロナウイルスの感染拡大による出産控え、を挙げています。高学歴化や経済成長が進み、多様な価値観が認められていく中、未婚率が上昇し、出生率が減少するのは全世界的傾向ですが、中国でも若年層の失業率の増加や子育て費用の肥大化が大きな問題となっています。

今年10月、国務院弁公庁が「出産支援政策の改善の加速により子育てにやさしい社会の建設を促進する措置」を発表し、新たな少子化対策を打ち出しました。地方政府に対する指示・要求として、産休・育休制度の充実と実施状況の監督強化、託児所や保育園に対して運営補助金の支給、子供のいる世帯が住宅を購入する際の公的支援等で、少子化に歯止めをかけるべく対策を講じていますが、はたして功を奏するのか、注目されます。



駐在生活から見える 「今日のランチ」

大家好！（皆様こんにちは！）、静岡県上海事務所の石川です。4回シリーズで「今日のランチ」をテーマに、駐在生活からみえる中国の今をお届けします。



静岡国際経済上海事務所
石川祐介所長

日本の皆様は年の瀬を迎えて慌ただしくお過ごしの際かと思います。中国に住んでいると「正月といえば春節」ですので、上海では、あまり年末らしさを感じることなく年越しを迎えようとしています。

それでも今年は、11月30日に中国の短期ビザ免除が再開されたことから、県内の皆様から訪中相談を受ける機会も増えつつあり、忙しくも充実した毎日を過ごしています。「昼間に打ち合わせが重なり外に食事に行く時間がない！」そんなときに重宝するのが、中国のデリバリー「外売（ワイマイ）」です。



中国では、青色のユニフォームの『饿了麼（ウーラマ）』と、黄色のユニフォームの『美团（メイトゥアン）』が2大デリバリーサービスとして中国各都市で熾烈なシェア争いを繰り広げています。コロナ禍で人との接触を避けるために爆発的に普及した業態の1つですが、実に中国の飲食店の7～8割でデリバリーが可能と言われており、今や人気レストランの味を自宅や職場でも楽しめる中国人では欠かせないサービスです。

少し小腹が空いてきた午前11時過ぎ、打ち合わせの合間に『饿了麼』のアプリを開くと、最近の人気店や、過去の注文履歴からお勧めの店舗がずらりと並びます。今日は寒いので辛い料理を食べようと四川料理を選択し、配達時刻と金額を確認して注文ボタンを押せば、あとは届くのを待つばかり。アプリで配達員の居場所を確認でき、オフィスビルには外売専用の配達ボックスが常備されているため、到着の連絡が来たら取りにいくだけのお手軽さです。

世界中の美食が集まる上海では、和食はもちろんシンガポールライスや、タイのトムヤムクン、イタリアのパスタ等各国の料理も注文可能です。私の今日のランチは牛肉冒菜（牛肉ミニ火鍋 600円＋配送料・容器代 84円）。時間がない中でも世界各国の料理が楽しめる外売。あまりに便利で毎食が外売になってしまうと悩む駐在員も多い魅惑のサービスです。



中国啤酒物語

VOL3



中国内でも様々なビールメーカーがあり、海外からの輸入ビールも種類が多く、スーパーには数多くのビールが並んでいます。その中で国産三大ブランドと呼ばれるのが、青島啤酒・雪花啤酒・燕京啤酒です。



★青島啤酒★ 青島ビールは、日本でも中国ビールとして知られる有名なブランドです。1903 年、ドイツの租借地であった山東省青島でビール製造を開始した青島ビールは中国で最も歴史あるビールの一つです。質の高いドイツのビール醸造技術が採用され、強みとなっています。また、青島は第一次大戦後日本の租借地となり、日本の「大日本麦酒」（現在のアサヒビールやサッポロビール等の前身）が経営していましたが、戦後は中国国営の企業となりました。青島ビールは崂山鉱泉水と良質大麦を使用する等、2023 年には純利益 42 億元を超え、価格は少し高めですが、ドイツビールのようなずっしりとした味わいを好む人には大変人気のビールです。



★雪花啤酒★ 雪花ビールは、中国では全国的なブランドで、華潤啤酒控股有限公司が生産し、生産量が最も多いビールです。華潤雪花は 1993 年、香港企業の華潤集団が瀋陽啤酒工場と共同出資により華潤（瀋陽）雪花啤酒有限公司を設立したことから始まります。2000 年になると雪花ブランドの全国展開戦略をとり、積極的に企業買収等を重ね、生産量・販売量を増やします。現在北京に本社を置き、2023 年販売量では中国シェアの 30%ほどを占めるまでにりましたが、輸出が比較的少なく、日本ではあまり知られていません。全体的にすっきりとした軽めの味わいで、価格は手ごろですが、ビール好きには物足りなさを感じるかもしれません。



★燕京啤酒★ 燕京ビールは、首都・北京の古い名称「燕京」の名の通り、1980 年に北京で創業されたビールメーカーです。北京で開かれた 2008 年夏季オリンピック、2022 年冬季オリンピックのオフィシャル・スポンサーなる等、北京を代表するビールブランドです。また、中国 FA カップを始めとして、様々なスポーツの協賛企業でもあります。売上ピークは 2013 年で、北京市場の 85%ものシェアを占めています。現在も中国国内の売上高の上位を占め、ドイツバイエルン地方のビール酵母を用いた高級路線のビールから日常的に飲むお手頃ビールまで、北京の人々に愛されるビールを作り続けています。

ご しょうせき 吳昌碩の世界

詩・書・画・篆刻の巨匠

日本の文化人や芸術家との親交も深かった吳昌碩(1844—1927)は、詩・書・画・篆刻全てに秀でた才能を持つことから「四絶(四つの芸術で並外れた技量や能力を持つ)」と称賛され、中国近代で最も優れた芸術家として知られています。



「西泠印社」の初代社長は吳昌碩



「西泠印社」は、中国の江南地方を中心とする各地の篆刻家・収集家・学者などが参集し、1913年に正式に結社され、この際に初代社長として推戴されたのが吳昌碩です。

「西泠印社」は、浙江省杭州市郊外、西湖に浮かぶ島・孤山の麓にある学術団体、及び関連企業・庭園があり、対岸との間にかかる橋「西泠橋」の袂に本社があることに由来します。「泠」は「冷」と間違われやすいが「に

すい」ではなく、「さんずい」です。

「西泠印社」の敷地には、明、清の古い建築や遺跡が複数含まれ、庭園は上品で、景色は静かで美しく、また文化的景観が多く、石碑や岩に刻まれた書道があちこちで見られます。

吳昌碩の「篆刻」、日本と縁を結ぶ

結社時、国内だけでなく日本からの参加もあり、河井荃廬・長尾雨山の2人が参加し、日本とゆかりが深いことがわかります。(※河井荃廬：近代日本の篆刻家である。中国に渡り吳昌碩に師事し、金石学に基づく篆刻を日本に啓蒙しその発展に尽くした。長尾雨山：明治期の日本の漢学者・書家・画家・篆刻家。)

吳昌碩は、日下部鳴鶴(1838～1922)をはじめとして、日本人の印を精力的に刻しています。特に70歳前後には犬養毅(1855～1932)、富岡鉄斎(1836～1924)、内藤湖南(1866～1934)、長尾雨山(1864～1942)などの依頼を受けています。吳昌碩が日本人の書家たちと交流する機会が増え、印刻の依頼が増えたのは、吳昌碩の芸術が1890年代から日本に紹介されはじめたことや「西泠印社」が創設されたことが大きな要因であったと思われます。

今も「西泠印社」は、「金石を保存し、印学を研究し、書画を兼ねる」という趣旨を受け継ぎ、篆刻の技を伝承して、芸術・創作・学術・研究・文化財考古学・出版などの面で輝かしい成果をあげています。



発行所：静岡県日中友好協議会 発行人：増井浩二

静岡市葵区追手町44-1(静岡県産経会館1階) TEL:054-255-8111

※「NEWS LETTER」は、当協議会HP(<http://www.japanchina-shizuoka.jp/>)でも閲覧できます。